

Reitaku Association for Overseas Development

麗澤海外開発協会 会報

平成18年
(2006年)

7月10日

第6号

第4巻 第1号

年2回発行

主な記事

巻頭言 挨拶(廣池 幹堂)
 報告 ネパール・タイ現地報告
 お知らせ タイ・スタディツアー募集ほか
 その他 寄付金等の報告

発行所: 財団法人麗澤海外開発協会
 〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
 TEL. 04-7173-3165 FAX. 04-7173-8953
 http://www.reitaku.or.jp
 発行人・岩田啓成 / 編集人・横山守男

「心の通う国際協力」を進めるために

財団法人麗澤海外開発協会 会長 廣池 幹堂



財団法人麗澤海外開発協会は、発展途上国における文化・経済の発展に寄与するために人材育成や技術指導を行うことを目的に、昭和46年(1971年)に外務省所管の公益法人として設立されました。

以来、35年にわたって発展途上国における人材の育成と技術指導を行い、微力ながらも世界の平和、人類の安心と幸福に寄与する活動を進めてきました。現在は主にネパールにおける鍼灸治療専門家の育成および治療用「もぐさ」の製造技術援助と、生活が困窮しているタイ北部の少数民族の子供たちの生活・教育施設(メーコック財団)への助成等を行っております。

また3年前より、麗澤大学教授で当協会理事の竹原茂氏(旧名:ウドム・ラタナヴォン〈出身国:ラオス〉)を発起人とする「竹原基金」を設け、東南アジア諸国で貧困等の理由で学校へ行けない多くの子供たちのための教育助成事業も推進しています。当協会へのご入会ならびに竹原基金等に対しては、皆様方に多大なるご協力をいただいております。紙上をお借りして厚く御礼を申し上げます。

現在、当協会では、これまでの経験と実績を踏まえ、発展途上国を中心に心の通う国際協力活動を推進するため、地域に適した積極的な国際協力・支援のあり方について検討を進めておりま

す。皆様方からも、これからの国際協力に関する忌憚のないご意見・情報をお寄せいただければ幸いです。

今日、深刻な政治的・経済的諸問題と取り組む発展途上国の姿を見ると、先進各国との経済格差はますます広がってきております。これらの諸国に対して援助の手を差しのべることは、今日の経済的繁栄を享受している私どもの果たすべき役割といえましょう。

麗澤海外開発協会では、これまでの35年の経験と実績を踏まえ、あらためてその使命を確認し、今後とも発展途上国における人材育成や支援等、より積極的な国際協力活動を推進していきたいと念願しております。今後とも、会員へのご入会ならびに竹原基金へのご協力等、当協会の諸事業に対するご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



ネパールに出来たクリニックで起立訓練を行う



ネパール 現地報告

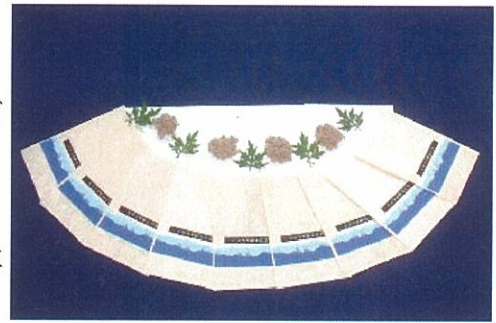
◆ 20年来の夢ついに実現

「ティテパティよもぎの会」から高級もぐさ「アンナプルナシリーズ I II III IV」が誕生しました。

「アンナプルナシリーズ I II III IV」はネパールで取れるよもぎを使い、下記のように丁寧な手作業により完成いたします。

もぐさの商品名をスタッフのみんなで検討しました。ブランド名は「ヒマラヤ印もぐさ」ですが、商品名を「アンナプルナシリーズ I II III IV」とし、4種類のもぐさを製造。アンナプルナは8,000mを超える峰々でI峰からIV峰、サウス峰まで5座あります。

今後とも、もっともっと研究を重ね、世界最高峰「エベレスト」を目指してまいります。



「ヒマラヤ印もぐさ」アンナプルナシリーズ

◆ もぐさ作りの様子



石臼で乾燥よもぎを挽く

早朝5時、住み込みスタッフがよもぎの乾燥室に火を入れて準備を整え、朝7時に工場は作業開始です。

出勤すると直ちに作業服に着替え、前日乾燥させたよもぎを1番臼に入れ、モーターのスイッチを入れると次々と粉碎された粗もぐさが出てきます。

スタッフは3つある石臼に座り、臼から出てきたもぐさを下に置いたバケツにかき集めます。一番臼のバケツがいっぱいになると2番臼に運び、2番臼のバケツを3番臼に運びます。3つの臼の間を休みなく往復

するため、距離は短くても相当な運動量です。また、一見楽そうな作業ですがとても危険で、直径1mの石臼の周りのもぐさをかき集めるために熊手棒を差し入れるのですが、そのとき運悪く石臼に手が触れると、1分間60回転の臼で手の甲が傷だらけになってしまうのです。

また3つの臼と「ながとおし」「とうみ」を同時に動かすと、周りが霞んでしまうほどの埃で全身真っ白になってしまいます。そこでマスクとシャワーキャップ、ヘルメットをかぶって作業しています。

一度に10kgの粗もぐさを入れることが出来る「とうみ」が2月末に完成し、3台の「とうみ」で仕上げています。この「とうみ」は日本のもぐさメーカーの株式会社山正さんと同じ大きさです。

平成元年にネパールに来て、もぐさを作りたいと懸命に努力した結果、ようやく今日を迎えました。まだまだ改善改良しなければならないことが山積みで、忙しい毎日ですが、出来上がったもぐさを手に取った瞬間は、感無量で胸が熱くなります。



2月に完成したとうみ



よもぎを裁断する

もぐさ製造工程

- ① 乾燥よもぎを乾燥室に入れる。2kgの乾燥よもぎをラックに入れ70~80度で6~8時間乾燥。
- ② 乾燥室から出したよもぎを1番臼に入れる。この段階ではまだ繊維や枝雑物が多い。
- ③ 1番臼で出来たもぐさを2番臼に入れる。1番臼より少し雑物が少なくなる。
- ④ 2番臼で出来たもぐさを3番臼に入れる。1番臼の3分の2ほどのもぐさができる。
- ⑤ 3番臼で出来たもぐさを「ながとおし」にかける。雑物と粉が取れ、10~15%のもぐさが出る。
- ⑥ 「ながとおし」がら出たもぐさを「とうみ」に入れる。5~8時間篩にかける。

上記のような工程で出来ませんが、作るもぐさの種類によっては再度工程を繰り返すことや、3と5、または4と5を繰り返すこともあります。

◆ オイルと石鹼、日本に輸入が決定

このほど大阪にある日野薬品株式会社と「よもぎエッセンシャルオイル 森の妖精」「よもぎ石鹼シリーズ753」の輸入契約が成立し、本格的に日本市場へ出荷することになりました。

よもぎの会設立当時からネパール人による自主独立を目指し、ネパールのいたる所に自生しているよもぎから様々な製品を開発してきました。日本での販売元がようやく決まったことにより、村おこし、国おこしの第一歩が踏み出せたと思います。



タイ 現地報告

◆ 卒業、そして旅立ち

3月上旬で1年の勉強が終わり、中学3年生2人がサハサートスクールを卒業しました。そのうち、男の子1人は家元からの通学が可能になったため、自宅からチェンライ市内の高等技術専門学校へ進学する予定です。もう1人の女の子は手芸が得意なので、チェンマイにあるキリスト教系の職業専門学校へ進学することになりました。無料の寮で生活ができ、服飾を学びながら週末は服飾工場（財団責任者ヒバット先生の奥さんアノラックさんが運営）で手伝いをします。幼稚園児の2人は来学年から小学校1年生に進学します。その他の子供たちもそれぞれ5月中旬から始まる新学年に進級します。



サハサートスクール（スタディツアー訪問時の様子）



朝礼の様子、金曜日は民族衣装を着て登校

サハサートスクールは3月上旬から5月中旬まで夏休みです。その間、子供たちは3つのグループに分かれて交代で数日間ずつ家に帰りますが、両親共にいなかったり、面倒を見てくれる親戚もいない子供はメーコック財団で過ごします。

中学を卒業した男の子が1名、メーコック財団を出て、実家に戻ることになりました。彼の親はメーコック財団での麻薬治療後に職を得ることができ、その子の兄弟も働いているため、経済的に進学させられるようになったとのことです。メーコック財団としては、その子を含めた家族の自立へのステップアップであると考え、彼を送り出しました。



竹の子が取れました

◆ 農作物も順調です

シイタケの栽培が再開され、すでに3月下旬には良品質のものが収穫されています。1日1kgくらいの収穫があり、市内のレストランで、1kgあたり200パーツで買い取ってもらっています。大きくて香りも良いので人気があるとのことです。4月から菌床を増やし、6ヶ月毎に菌床を取り替えて栽培していく計画です。また、財団内で出たゴミからEM（有用微生物群・農業に利用することで作物の収穫量を高めることができる）を作り、シイタケの栽培やお茶の栽培に活用しています。



畑に植えられた野菜

メーコック川沿いの畑は、数種類野菜が栽培されていますが、数ヶ月前と比べてもあまり栽培量は増えていないようです。3月に入ってから日中は高温になり、雨もほとんど降っていません。川沿いの畑、お茶畑、マッシュルームハウスでスプリンクラーを使用しています。

今後は、鶏卵プロジェクトに代わり、養豚プロジェクトも検討しています。

◆ 職業訓練

メーコック財団近くの村、パースナイ村の温泉の向かい側に改装をしているゲストハウスがあり、年長の男の子が学校が休みの期間、ほとんど毎日改装作業を手伝いました。溶接の技術習得ができ、また1日100パーツの賃金をもらうことができました。彼はそれで学校のボーイスカウトで使うユニフォームを買うそうです。

また、女の子が作っている刺繍のモチーフを、メーコック財団内のオフィスで訪問者の方々に売っていますが、訪問者から注文を受ける場合もあるそうです。自分の作品が売れたときには、そのうちの何割かをお小遣いとしてもらうこともできます。暇な時間を見つけてはせっせと刺繍に精を出していました。



山岳民族の伝統的な刺繍を習う



麗澤海外開発協会「タイ・スタディツアー」を実施 感動の連続！志を新たに

2月12日からの8日間、タイ・スタディツアーを行い、麗澤大学生を中心に14名が参加。全員無事、元気で帰国しました。このツアーは、タイ北部チェンライ郊外にある貧困等の理由により学校に通えない24名の子供たちに寄宿舎を提供、通学支援や職業訓練を行っているメーコック財団を訪れ、タイやその周辺の援助を必要とする国への理解を深めることを目的とするものです。

参加者は、困難な状況におかれても元気に遊び、一生懸命に勉強する子供たちの輝いた目を見て、本当の豊かさとは何か、本当の幸せとは何かを考えさせられたようでした。また、タイの文化に触れ、さまざまな人と交流する中で、日本という国を見つめ直すことができ、国家や家族の恩恵、豊かな生活水準、そして国を愛する心の大切さを実感したようです。

以下に、参加者の感想を紹介します。



アカ族の村の子供たちと交流

毎日がとても色濃く心に残っていて、本当に感動の連続でした。お寺の美しさだけでなく、タイの人々の国を愛する姿勢や、強い思いにとっても胸を打たれました。

ゴールドトラライアングルでは、その地に立つだけで涙が出てきてしまいました。言葉や文字だけではなく、目の前に広がるその壮大さに心が震えます。

また、子供たちの元気に走り回る姿や、キラキラ光る笑顔には、本当にたくさんの元気と勇気をもらった気がします。彼らのその姿はとても印象的で、私の心の奥底にきれいに残っています。あらゆる場面での一コマ一コマが、今でも鮮明に思い出せるほど印象深く、多くの感動を与えられました。

(20代女性)

今の自分が暮らしている環境は、本当に幸せだと感じます。メーコックの子供たちは、きっと私が想像も出来ないような辛い思いをしてきたのだと思いますが、前向きに力強く生きようとする姿に感動しました。

今、自分がたくさんの人に支えられ、幸せに生きられることは、当たり前なんかではないということを強く感じ、今後もこの気持ちを忘れることなく、感謝の心で生きていきたいと思えます。

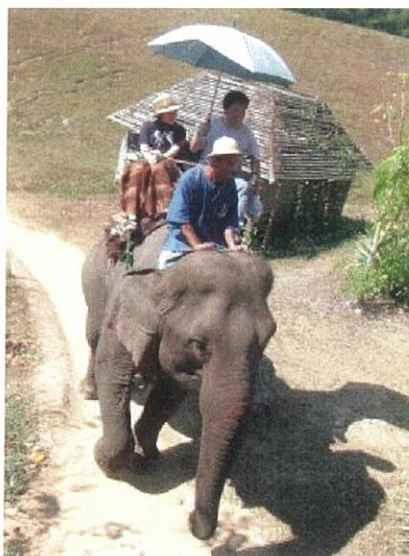


メーコック財団の子供たちが通う小学校を訪問

自分では諦めて消えかけていた、国際人になりたいという夢、その夢にまた目覚めてしまいました。志を高く持って、人生を歩む人の姿に感激し、私もそうなりたいと思いました。

参加する前は、まったく関心が無く、知識も無かった麻薬ですが、タイにこだわらず、ゴールドトラライアングル地域の麻薬問題に対して、解決したいと思えます。

(50代男性)



象乗り体験

相手を知ることが人間関係の基本で、お互いの国を理解することが国際協力の基本なのだと思います。

寄付はとても大切なことであるけれど、その使い道がどうなっているのか、それは必要なものなのか、今後どう役に立つのか、先を見据えて支援をしていかないといけないということを教えていただきました。

細くても長く、自分に出来る限りの支援をしていきたいと思えます。

(20代女性)

タイスタディツアー参加者募集!

生活習慣の違いやタイ北部の子供たちの現状を実地に体験することで、援助を必要とする国への理解を深め、自らの新しい可能性を発見してみませんか。

【日時】平成19年2月5日(月)～2月13日(火)(9日間) ※5日事前研修会

【訪問先】タイのバンコク、チェンライ

【参加費用】160,000円

- ・含まれる費用：往復航空運賃、空港使用税、期間中の宿泊費・食費・移動費、コーディネート費
- ・含まれない費用：パスポート、海外旅行傷害保険費、集合前及び解散後の移動費、その他個人的諸経費、自由行動中の諸経費、タイ空港使用料(500B)、チップ、寄付金



スタディツアー参加者とアカ族の村の子供たち

【応募資格】

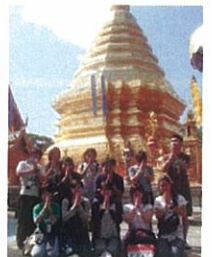
- ・年齢18歳以上(20歳未満の方は保護者の承諾書が必要)
- ・健康状態が良好な方
- ・当協会の活動に関心がある方

【募集人数】10名(定員になり次第締め切り)

【申込期限】平成18年11月30日(木)

【お問い合わせ・申し込み先】

(財)麗澤海外開発協会 事務局(岡戸)
〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
TEL: 04-7173-3165 FAX: 04-7173-8953
E-Mail: emiokado@ga.reitaku-u.ac.jp



■ 訪問先・・・チェンライ メーコック財団

タイ北部には、昔から山岳少数民族を中心とした、教育を受けられない多くの人々が、貧困や麻薬、売春、エイズといった問題を抱えながら生活してきました。当初はそういった現状を視察するための「スタディツアー」を中心に活動を展開し、1996年からは麻薬中毒患者のリハビリテーションと職業訓練のプロジェクトを約5年間行い、大きな成果を上げました。また2000年からは、その活動のメインを教育支援活動に移し、貧しくて教育を受ける機会に恵まれない子供たちを受け入れ、寮生活を通じた「自立」のための教育活動を行ったり、村や学校、政府と協力しながら地域への教育支援を行ったりしています。

当協会では現地で活動するメーコック財団と協力し、タイ北部の教育施設において教育支援や職業訓練を行い、子供たちの自立を目指しています。



タイのメーコック財団にて

「伝統の日」(柏会場)に出展しました

6月3日(土)、4日(日)にモラロジー研究所・廣池学園が主催する「伝統の日」(柏会場)において、タイ教育支援活動・ネパール医療支援活動の写真パネル展と民芸品販売を行いました。民芸品販売ではタイ山岳民族の伝統工芸刺繍や全て手作業で作られている作務衣(さむえ)、ネパールで作っているよもぎグッズが販売され、品物をご覧いただいた地方の方からは、「販売を委託させてほしい」のうれしいお言葉が寄せられました。一つ一つ手作りされた商品は全て風合いが違い、また、天然素材でできているので体にも安心です。ぜひ一度ご覧ください。



タイ北部の手工芸品販売

「大学生との懇親会」を開催しました



皆の前でスピーチ

6月22日(木)に大学生との懇親会を行い15名が参加、スタディツアーの発表などを行いました。懇親会では文化の違いや様々な出会いを通して感じたこと、帰ってきてからの変化や目標について語り合い、「竹原先生に出会えて、タイの子供たちに出会えて本当に良かった」「感謝の気持ちを持って生活できるようになった」と様々な感想が出ました。今後このような場を増やしていき、麗澤の学生とモラロジー団体、そして現地の人たちとを繋ぎ、協力した支援ができる体制を目指していきたいと思います。

連載コラム

にっこり笑って「ノー」

第4回

南アジアのインド、パキスタン、ネパール等の観光地を旅していると、これらの地域に住む人々に共通する性格が浮かび上がってくる。その一つが、良く言えば「粘り強さ」、悪く言えば「しつこさ」である。特にインド人のしつこさはゴールドメダル級といえる。

眼鏡、デジカメ、『地球の歩き方』、この3点セットの日本人観光客を見ると、猛烈なチャージをかけてくる。「オニイサン」「ニッポン」「ワンダラー」「トモダチ」の単語を発しながら、しつこく付きまとうのである。脈があると見るや、それが何時間でも厭わない。私もインドの首都デリーで半日間、「トモダチ」に付け回された経験がある。

中部ネパールのポカラは首都カトマンズから西へ200キロ、海拔800mの温暖な気候と、ペワ湖に映る周囲の山々の美しいネパール有数の保養地である。

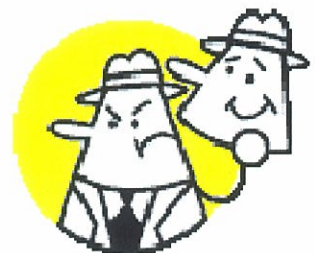
ポカラのカフェテリアでチャー(ネパール・ミルクティー)を飲んでいたら、「オニイサン」が「チェンジ・マネー? (両替しないか)」とやってきた。この手の類は、やたらと多い。彼は決して両替屋ではな

い。いわば「紹介屋」である。「ホテル」「レストラン」「マッサージ」、どんなところでも案内してチップ(紹介料)を稼ぐのである。

私は即座に「ノー」を言ったが、効き目がない。「オニイサン」は、私の席の前に居座って動こうとしない。しかたがないので、私は険しい顔で、怒鳴りつけるように「ノー」を言い放った。彼はどうして怒鳴られるのか怪訝そうに私から離れた。

しばらくして西洋人のところに擦り寄った彼は同様に声をかけた。すると西洋人は、にっこり笑って、しっかりと、ゆっくりと「ノー」と言った。「オニイサン」は、即座に席を離れた。

「ノー」を発するときには、にっこり微笑んで、ゆっくりと言うのだ。以来、私はこの技を使っているが、実にこれは効き目がある。皆さんも一度お試しあれ。



(A. K)

平成17年度事業報告

平成17年度 収支決算書

(単位 円)

1. 技術者の派遣と支援事業への助成

<ネパール>

- (1) 東洋療法(鍼灸・指圧)により、住民の健康回復に寄与するため、日本人専門家(鍼灸師)を派遣して、現地治療技術者のフォローアップおよび治療に使用する「もぐさ」製造に必要な技術的な援助を行った。
- (2) 昨年、チャランケル村に建設した「クリニック兼もぐさ工場」は、活動の拠点として順調に運営されている。

<タイ>

- (1) タイ北部チェンライ県で、生活が困窮している少数民族の子供に対して生活・教育支援施設の運営を行っているメーコック財団へ運営費の助成を行った。
- (2) メーコック財団へ派遣して活動の支援を行った。

2. 海外研修旅行の実施

- (1) タイスタディツアーを実施して、海外ボランティア活動を体験学習し、タイ社会の現状理解を深めた。
日 程 平成18年2月12日(日)～2月19日(日) (8日間)
- (2) タイ北部視察旅行を実施して、タイ社会の現状理解を深めた。
日 程 平成17年10月28日(金)～11月3日(木) (7日間)
- (3) 麗澤高等学校タイスタディツアーに職員を派遣して、ツアーの運営サポートを行った。
日 程 平成17年12月21日(水)～12月29日(木) (9日間)

3. 海外視察

メーコック財団の活動状況と広報ツール収集のために出張した。
日 時 平成17年4月23日(土)～29日(金) (7日間)

4. 広報活動

- ① ニュースレター第4号(6月)、第5号(12月)を発行した。
- ② インターネットホームページを改定した。URL: <http://www.reitaku.or.jp>
- ③ ポスター及びリーフレットを制作し配布した。

5. 賛助会員募集

賛助会員、寄付金、竹原基金の募集を実施し、次のとおり加入があった。

- ① 賛助会員 法人:12社 個人:123名
- ② 寄付金 86件 ③ 竹原基金 104件

6. 概説・原典研究講座の選択コース開設

モラロジー研究所の概説・原典研究講座の選択コースに「国際救援活動」のコースを開講した。

タイトル:「心の通い合う国際協力活動を考える」
第283回 平成17年7月26日(火)
第285回 平成17年9月16日(金)
第292回 平成18年3月9日(木)

7. 出展活動

活動を多くの皆様にご覧いただくため、写真展示やタイやネパールの民芸品のグッズ販売、会員募集案内を行った。

- ① 「伝統の日・感謝の集い」
- ② モラロジー研究所主催「生涯学習フェスタ2005」

収入の部		支出の部	
基本財産利息収入	1,100,413	会議費	329,835
賛助会費収入	2,120,000	旅費交通費	39,240
寄付金収入	1,248,144	通信費	113,488
竹原基金収入	990,423	消耗品費	38,350
受取利息収入	1,879,584	印刷費	371,584
当期収入合計	7,338,564	雑費	100,036
前期繰越収支差額	11,374,338	海外旅費	3,024,638
収入合計	18,712,902	広報活動費	571,223
		図書資料費	205,665
		助成費	500,000
		当期支出合計	5,294,059
		次期繰越収支差額	13,418,843
		支出合計	18,712,902



2月に開催されたスタディツアー



ホームページ



生涯学習フェスタ2005

竹原基金のご案内

竹原基金は、タイやラオス、カンボジア東南アジアの貧しい子供たちや少数民族の子供たちの教育等を支援するために活用されます。何卒ご支援とご協力をお願い申し上げます。

お振込先について

*郵便局振替の場合は、通信欄に「竹原基金」とご記入ください。

郵便振替:口座番号 00120-6-499164 名義:(財)麗澤海外開発協会

*銀行振込の場合は、下記の専用口座をご利用ください。

銀行口座:三菱東京UFJ銀行 松戸西口支店 普通 1286464 名義:竹原基金口



驚異のよもぎパワー

ネパールのもぐさ工場では、もぐさが出来る過程で不要になったよもぎの粉が毎日たくさん出てきます。あまりに量が多いため、よもぎ風呂として活用するにも限界があり、捨てる場所に困ってしまいました。

そんな時、その粉を畑に捨てることに。そしたらなんと、荒地のため貧弱な野菜しか出来なかった畑から立派な作物が出来るようになったのです。

昨年、秋植えの種を蒔こうと土を掘り返してみるとたくさんのミミズが出てきました。中には小指くらいの太さの丸々と太ったミミズもいます。

土壌専門家や農業専門家が見学に来られ、ミミズは糞をするのでそれが土壌改良に非常に良いと言われました。また別の専門家は、ネパールに来てこれほど柔らかい土を踏んだのは初めて、本当に良い土だと感心しておられました。

さらに害虫も付かず、雑草もほとんど生えてきません。今、畑ではカリフラワー、エンドウ、ソラマメ、高菜、ほうれん草、大根、ジャガイモ、サツマイモ、蒨、ミョウガ、フキノトウが収穫出来る予定です。出来た野菜は有機栽培野菜を販売しているお店に置かせていただき、売り上げ(微々たる額ですが)はスタッフの昼食代の補助にしています。

そしてもう一つ驚きの発見があります。12月から2月初めまでは霜が降り、屋根の上や土も白くなりました。しかし、周りの家の畑には霜が降りているのに、うちの畑には霜が下りていないのです。これはもしかするとよもぎの「保湿保温作用」の効果かもしれない。

これから毎年5,000kg以上の粉が出るので、それを市場に出すことを計画しています。手始めに有機栽培に10年以上取り組んでいる農場に無料提供し使っていただくことになりました。今年から週2回販売される彼の直売所で「有機肥料よもぎパウダー」として販売してもらうこととなります。まだ月に50kgほどの販売量ですが、捨てる場所に困った結果が思わぬ効果を発見、まさに「捨てる神あれば拾う神あり」とはこのことではないかと思っています。



畑にびわの木を植える

(畑 美奈栄)

たくさんのご支援、ありがとうございます

(平成17年11月から平成18年5月末日)

会員へのご入会ならびに竹原基金へのご協力等をお願いしましたところ、皆様から多大のご協力をいただきました。紙上を借りて厚く御礼を申し上げます。お寄せいただいた会費や基金・寄付金は、東南アジア諸国で貧困等の理由で学校へ行けない子供たちに対する教育助成事業、ネパールにおける鍼灸専門家の育成およびクリニック兼もぐさ工場を運営する事業等に役立たせていただきます。今後とも、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

種類	年 額
個人会費	1口 1万円(1口以上)
法人会費	1口 1万円(3口以上)
一般寄付金	任意の寄付金を募ります
竹原基金	任意の寄付金を募ります

郵便振替：口座番号 00120-6-499164

名義(財)麗澤海外開発協会

※通信欄にご寄付の種類をご記入ください。

銀行口座：三菱東京UFJ銀行松戸西口支店 普通4057567

名義(財)麗澤海外開発協会

個人会費

望月靖子、望月淑子、望月敏雄、望月雄二、俣野幸昭、田島正幸、長谷川和子、岸本收、宮脇常夫、高松宇佐雄、高松洗、大村金三、藤村陽子、平川恵一、新井秀啓、杉浦廣道、宮本晴夫、山田雅雄、長谷和治、内田八代、橋本半兵衛、永田善幸、藤森忠雄、大谷誠之、石渡英雄、山本浩、高橋博美、渡辺价儀、今井收、渡邊安春、藤村薫、上村卓三、山崎純雄、所一彌、齋藤芳男、宮本ミヨ、東海林新彦、山口マーク、矢口信哉、内田誠一郎、梅村元成、柴田英輔、武藤孝義、戸邊治朗、戸邊みな子、西村マサノ、井上源一、石川欽一、廣池英行、栗山清和、長谷篤治、市野忠志

法人会費

株式会社小松製菓(小松務)、アサヒ株式会社(大賀康弘)

一般寄付金

竹原茂、田島正幸、木村多加志、藤本秀雄、宮脇常夫、金子武正、高松洗、荒木郁雄、長谷和治、丸山駿一、山田雅雄、内田八代、篠原正隆、橋本半兵衛、森下健、渡辺康博、石渡英雄、御代川克之、山本浩、阿部榮次、永井弘純、横溝久子、三浦俊夫、小山松男、所一彌、大賀康弘、木野千代子、笹林正孝、梅村元成、横溝久子、小西幹夫、横溝久子、栗山清和、望月雄二、長谷篤治、西川喜久雄、河北モラロジー事務所(箱田外代治)

竹原基金

前田三作、望月雄二、ウヰマツカ文子、横溝久子、田島正幸、和田悦治、長谷川和子、峯川忠之、岸本收、宮脇常夫、金子武正、高松洗、平川恵一、荒木利郎、長谷和治、山田雅雄、内田八代、篠原正隆、橋本半兵衛、石渡英雄、加藤栄一郎、竹政三和、山本浩、鋤柄勘治、井上千多枝、平英幸、平百絵、所一彌、宮本ミヨ、田中駿平、安達俊子、関根ゆかり、早野愛美、林芳子、伊藤慎二、三保博子、西村マサノ、廣池英行、栗山清和、長谷篤治、山口明、河北モラロジー事務所(箱田外代治)、麗澤高等学校4年Gクラス、麗澤大学竹原ゼミ、株式会社めこん(桑原辰)

(敬称略)

会費、寄付金をお寄せいただいた方のお名前は、会報に掲載させていただきます。掲載不要の方は振込用紙の通信欄にその旨をご記入いただくか、事務局までお知らせください。ご連絡のない場合は、掲載に同意いただいたものとさせていただきますので、ご了承ください。(麗澤海外開発協会事務局：04-7173-3165)